



読書

会員 船尾 遼 (64 期)



「趣味は読書です」というと「無趣味なんだね」と友人に言われることが多い。確かに、趣味が無い人間に趣味を聞くと、詰まった上でこのように答える人が多い。しかし、私としては大変不本意である。弁護士であれば、私と同じように感じる人が多いのではなかろうか。

私は、読書が趣味である。基本的に本が目の前にあれば読まざるを得ないし、プライベートの時間に古本屋の前を覗かずに通りすぎることは至難の業である。また、所属している法律家団体の集まりで本を販売していれば、大概散財することになる。仕事中外にこの衝動を抑えることは難しく、一緒にいる方たちには多大な迷惑をおかけしていることは疑いのない事実である。最近は電子書籍もはやっているようだが、やはり本が一番である。紙とインクのおいがないと、どうしても本を読んでいる気がしない。図書館は、司法試験の思い出がよみがえるためあまり居心地がよくないが、それでも私にとって幸せな気持ちに浸らせてくれる空間である。

いい加減に内容の話に入ろうと思う。どのような内容の本を読んでいるか思い出すと、自分でも呆れるほど乱読である。軽い推理小説から、エッセイ、時代物、専門書まで何でも読む。そういえば、最近、

純文学は読まない。年齢と共に読む本のジャンルが変わってきたように思える。一度年表にしてみると面白いかもしれない。

最近では、時代物と専門書を特に読んでいる気がする。時代物は、大学時代に藤沢周平作品を片っ端から読んだ覚えがあるが、最近、藤沢作品を読むと、昔とは違った感じ方をする。修習時代に東北で過ごしたからか、あまり考えたくないが年齢のせいかな。10年後にはまた感じ方が変わるのだろうか。専門書はかなり読むようになった。経済関連や社会学は、仕事にも役に立ち、しかも極めて生産的な知的作業である。

もっとも、最近では本を読んでも、同じジャンルの本を読んでいる人間と話をすることが少ない。また、最初に戻るが、読書が趣味というのは、私の同世代にはなかなか理解され難い面がある。たまには趣味をあわせて話題をつくったほうがいいのだろうか。そういえば、昔は水泳、柔道、スノーボード、サッカーとアクティブな趣味も持っていた。久しぶりにそちらにも手をだそうかとも思うが、時間がつかれない。

結局、この仕事を続ける限り、よくも悪くも「趣味は読書です」と言い続けるのだろうか。